町医者だより

平成24 年02月号

＜発行・お問合せ先＞
おおわだ内科呼吸器科
院長　大和田　明彦
市川市南八幡４－７－１３
ｼｬﾝﾎﾟｰﾙ本八幡２階
ＪＲ本八幡駅南口(シャポー改札口)
２分ミスタードーナツ並び
ヘアサロンAsh向かいビル2階
電話０４７-３７９-６６６１

おおわだ
内　科
呼吸器科

睡眠時無呼吸症候群の最近の知見

今月も喘息から離れた話題です。いびきをかく方の中に睡眠中に呼吸が止まる方がいらっしゃいます。そのような方は睡眠時無呼吸症候群の可能性があります。その内の９０％以上の方は上気道が狭くなる閉塞型睡眠時無呼吸症候群（OSAS）に分類されます。
睡眠時に上気道が狭くなり、ついには窒息状態となって呼吸が止まってしまうのですが、舌が後方に落ちて咽頭入り口をふさぐためと考えられています。どうして舌が落ちてしまうかの最新の知見を紹介いたします。

オトガイ舌筋の神経障害

重症の閉塞型睡眠時無呼吸症候群の方はCPAP療法を行っています。特殊なマスクを装着します。その中を圧をかけた空気が送られていき、寝ている間に上気道が狭くなるのを防いでいるのです。このようなCPAP療法を行っている患者さんに話しを聞くと、治療前は朝起きるとのどが痛くて仕方がなかった、と話す方が少なくありません。これは、いびきによる振動や口が開くための乾燥がのどの炎症を引き起こしているものと思われます。
米国呼吸器学会雑誌（AJRCCM）の2012年2月1日号に「いびきによる振動」と無呼吸（窒息状態）に伴う「低酸素血症」によって舌を前に出すときに使用するオトガイ舌筋の神経が損傷しそれに伴う神経の再構築がOSAS患者さんに起こっている事が確認されました。舌の運動障害が睡眠時の舌の落ち込みの原因として有力視されています。

舌下神経刺激療法

オトガイ舌筋を支配しているのが舌下神経です。昨年１０月に、この舌下神経を皮下に埋め込んだ電極で刺激するペースメーカーに似た装置（Apnex Medical、Inc）がヨーロッパでの医療機器の販売に必要なCEマークを取得したという記事が掲載されました。この装置で寝ている間に舌下神経を刺激して舌の落ち込みを防ごうというもので今後新しい閉塞型睡眠時無呼吸症候群の治療法になるかもしれません。

慢性的な咳との関連性

医学論文上「慢性的な」咳は「8週間（2か月）以上」続く咳を意味していますが、慢性的な咳の原因に閉塞型睡眠時無呼吸症候群がなりうることを示す論文が2編報告されています（アブストラクトでのみ確認　Cough2010年、J　Clin　Sleep　Med　2011年）。慢性的な咳の原因を調べる検査に睡眠時無呼吸症候群の診断に用いるポリソムノグラフィ（PSG)検査も加えるべきではないかと指摘しています。喘息と閉塞型睡眠時無呼吸症候群の関連性を実際に患者さんを診察していると感じることが多いのですが、現時点では関連性を強く示唆する論文を発見できていません。